# 生ごみたい肥化容器（電気式）の使用で**約95％の減量**(※1)効果！

市の平成 28 年度のごみの総量は 54,475ｔとなっており，そのうち厨芥類（生ごみ）が占める割合は，組成分析（※2）からの推測で約 13,074ｔとなっており，生ごみの減量は非常に重要な課題です。そこで，生ごみたい肥化容器（電気式）の減量効果について，職員で検証しました。

今回は，野菜くずのみでの実験ですが，仮に，市民全員（約 19 万６千人/約８万６千世帯）が生ごみたい肥化容器（電気式）を１年間使用し，下記の減量化数値（95%）で計算すると，年間で 12,420ｔの生ごみが減量され，１世帯あたり（４人と仮定）では 253kg，一人あたりでは約 63kg 減量できる見込みです。

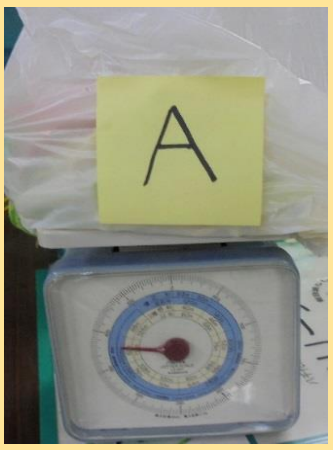
また，平成 28 年度の「一人一日当たりのごみの量」は約 761ｇですが，組成分析からの推測で，生ごみの割合は約 183g となり，下記の減量化数値（95%）で計算すると，約 174ｇの生ごみが減量できます。

※実際には，魚の頭や骨，甲殻類・卵のカラ，パンや麺類等の生ごみがミックスされるので，上記の数値はあくまでも参考としてください。

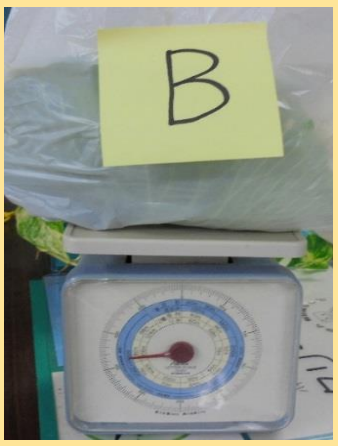
※1 職員が野菜くずで実験した数値です。

※2 組成分析とは，出されたごみを構成する種類とその割合のことをいいます。平成 28 年度の市の可燃ごみの中で，厨芥類（生ごみ）が占める割合は，約 24%という分析結果が出ています。

袋Ａ・・（野菜くず３８０ｇ）



袋Ｂ・・（野菜くず３６０ｇ）

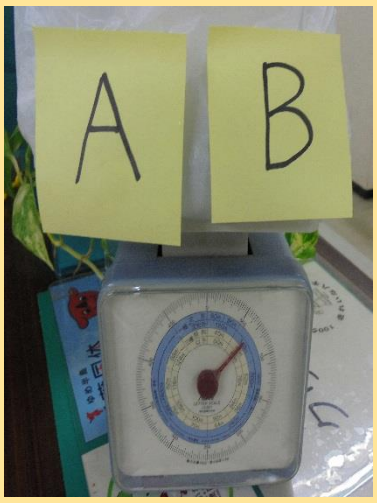
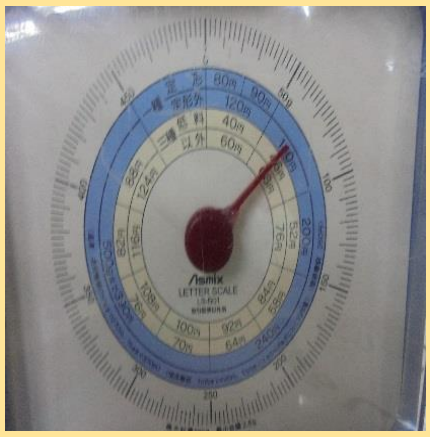


袋Ａ（野菜くず３８０ｇ）

袋Ｂ（野菜くず３６０ｇ）

を足したもの・・・７４０ｇ

写真でもわからない程、減容されました！

（740ｇから 70ｇになり，**約９５％の減量**に成功！）

容器のフタを閉め，
スイッチを押し，
稼働させると・・